編 集 後 記

「留学生センター紀要」から「国際交流センター紀要」となって、はや第3号を迎えることになりました。第3号には、研究論文4本、研究ノート1本、調査報告1本、実践報告1本の合計7本が掲載されています。

研究論文および研究ノートでは、三重県における男女共同参画の推進に関わるインタビュー調査を基にした研究、現状志賀重昂・三宅雪嶺並びに内藤湖南の日本論・中国論の文学・歴史論的研究、韓国人学習者の日本語のアクセント習得に関する音声研究、そして、敬語表現を中心としたコミュニケーション指導に関する研究の合計5本が掲載されています。いずれも一昨年より開始された学内協力による査読を経た質の高い論文となっています。また、調査報告では、最近在日本出版中国関連書籍報告（2006年～2007年）、実践報告では『実践：日本語教育Ⅰ＆Ⅱ2007』の企画実施報告（1）が掲載されています。

本年度を振り返ってみますと、国際交流という名称にふさわしい行事が目白押しでした。海外からの応募者が全員ホームスティしながら日本語学習ができる「サマースクール・プログラム」（2007年8月～9月）、協定大学とのタイにおけるジョイント・セミナー（11月）、日本語・英語のスピーチ大会やアジアの映画を紹介した「国際交流週間」（12月）、そして「インターンシップ・プログラム」も本格的に起動し始めました。一方で、本学の国際交流基金による『実践日本語教育Ⅰ（シンポジウム）＆Ⅱ（留学生の母語による学習支援）』（8月～9月）、また、文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業（ボランティアを対象とした実践的長期研修）の採択を受け、「三重大学ボランティア日本語講師養成講座」も行われました（2007年10月～2008年3月）。おそらく、各大学の留学生センターも独自の国際交流事業に邁進していることと推測されますが、本大学のセンターも今後どのように国際交流の事業を展開していくか、本腰を据えて検討していく時期に来ていると思われます。

最後に、今年度は国際交流センターにとって悲しいことがありました。13年の間、本学のセンターで教鞭を取ってこられた森由紀准教授が、病気療養中のところ2007年10月17日にご逝去されました。森由紀准教授は、地域の人権問題、とりわけ外国人労働者や外国籍の子供たちの問題に早くから関わっていた中心的な存在であっただけに、とても残念に思います。もっと地域のためにという意思半ばでのご逝去でした。また、本紀要発行にあたりましては、ご病気のお体にもかかわらず、途中まで委員としてご尽力くださいました。亡くなられた後、「森由紀先生を偲ぶ会」が開かれ、多くの留学生が出席していました。このような1年を通して、できるだけ先生の遺志を継いで、また、センター教員が力を合わせて頑張っていきたいと、切に思いました。

（福岡昌子）

三重大学国際交流センター紀要 第3号（通巻第10号）

2008年3月20日　印刷
2008年3月26日　発行

編集委員：福　岡　昌　子（委員長）
森　　由　紀
櫻　井　しのぶ

発行者　三重大学国際交流センター
〒514-8507　三重県津市栗真町屋町1577

印刷所　伊藤印刷株式会社
〒514-0027　三重県津市大門32-13
TEL 059（226）2545　FAX 059（223）2862